令和８年

７月の重要農作業

四国中央市農業振興センター
《問い合わせ先》
四国中央農業指導班　TEL 23-2394
（畜産）東予家畜保健衛生所　TEL (0897) 57-9122

【作　物】

１　早期水稲の管理

(1)　水管理について

ア 中干し直後：２～３回走り水を行った後に、間断灌水を行います。

イ 幼穂形成期～穂ばらみ期：土壌水分が不足すると収量や品質が低下するので、水分を十分保ちます。

ウ 出穂期～出穂期以降：浅水管理（２～３㎝）をします。異常高温が続く場合は、ヒタヒタ水管理(飽水管理)で根傷みを防ぎます。

エ 登熟期：灌水して土壌に水分を与えたら、水は溜めずに、足跡に水がたまっている程度まで自然減水した後、再び浅水管理の潅水を繰り返します。

オ 落水期：落水期は収穫前７日程度としますが、収穫作業に支障のない程度に刈り取り直前まで走り水灌水で土壌水分を保ちます。

(2)　病害虫防除

防除時期	病害虫名	農薬名 濃度 使用時期
出穂期前	紋枯病	バリダシン液剤５ 1,000 倍、収穫 14 日前まで
穂揃期～ 傾穂期	カメムシ類 (ｳﾝｶ類、ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲにも有効)	スタークル顆粒水溶剤 2,000 倍、収穫７日前まで

２　普通期水稲の管理

(1) 中間追肥

根の活力を高めるため、出穂 40 日前頃に、ＰＫミックスを 20kg/10ａ施用してください。

(2) 水管理(中干し)

必要茎数（約 18～20 本/株）が確保され次第、足跡が軽くつく程度に行います。中干しの目安は約７～10 日間で、圃場により土の乾き具合が異なるため、土壌条件に応じて連続または間断での中干しをしてください。

(3) 病害虫防除

田植時に「サンエース箱粒剤」を使用した場合は、出穂期まで防除効果が期待できますが、水稲の生育状況や病害虫の発生状態をよく観察して病害虫防除を行ってください。　＜松本＞

【野　菜】

１　さといも

(1) 病害虫防除

ア　疫病

発生条件は、平均気温 25℃以上で長時間の降雨条件(梅雨)により発病し始めます。

圃場内の排水を良好にして、停滞水がないようにしてください。

本市における平均気温25℃以上は６月中・下旬頃ですが、本年は梅雨が早く高温が予想されており、初発警戒にカンパネラ水和剤を散布してください。

疫病は、圃場周辺から発病してくる場合が多いため、圃場の観察を行い、発病を確認したら、ダイナモ顆粒水和剤を散布し、２週間後にピシロックフロアブルを散布してください。

８月の警戒期の体系防除として、ダイナモ、カンパネラ、ピシロックを２週間の間隔で散布してください。台風前後は必ず防除してください。

農薬名	病害名	濃度	収穫前日数 ／　回数	使用上の注意点
ダイナモ 顆粒水和剤	疫病	2,000倍	収穫２１日前まで ／ 3回以内	予防及び治療効果がある 感染直後でも、病気のまん延を阻止 連用すると耐性菌が発生しやすい
カンパネラ 水和剤	疫病	1,000倍	収穫７日前まで ／ 2回以内	浸達性と浸透移行、高い耐雨性がある 高温多湿時に薬害を生じるおそれがある
ピシロック フロアブル	疫病	1,000倍	収穫前日まで ／ 3回以内	予防主体であるが、病害進展抑制効果がある 収穫前日まで使用できる

注意点：防除は灌水後夕方に行ってください。展着剤「スカッシュ」2,000 倍、「まくぴか」10,000 倍を加用すると薬液がよく付着し、防除効果が上がります。

イ　ハダニ類

梅雨の中休み、梅雨明け後に、高温乾燥が続くと圃場周辺の雑草から侵入します。増殖すると防除が困難になるため、低密度時から防除してください。

(2) 水管理

梅雨期間中、梅雨明け後に晴天が続く場合、灌水開始が遅れて乾燥により葉焼けを起こすので、土壌水分や生育状況を観察し適期に灌水してください。

(3) 施肥

おおなか作業を行った化成体系のさといもは、おおなか１ヶ月後を目安に化成 444 を 40 kg/10a 施用してください。　＜徳永＞

２　やまのいも

(1) 施肥

肥料吸収は、７月上旬から徐々に増加し８月に最大となります。ＪＡうま山の芋栽培指針を参考に追肥してください。

最終追肥は７月下旬から８月上旬までに実施してください。

(2) 病害虫防除体系

防除時期	薬 剤 名	病害虫名	濃　度	収穫前日数/回数
６月	アクタラ粒剤５	アブラムシ類 ナガイモコガ	６kg/10a	萌芽期/１回、株元散布
７/上～中	グレーシア乳剤	ハスモンヨトウ	2,000 倍	前日まで/２回以内
	ダコニール 1000	炭そ病	1,000 倍	30 日前まで/６回以内
７/下～８/上	コロマイト乳剤	ハダニ類	1,000 倍	７日前まで/２回以内
	ペンコゼブ水和剤	炭そ病	600 倍	21 日前まで/４回以内
	プレバソンフロアブル５	ハスモンヨトウ ナガイモコガ	2,000 倍	前日まで/３回以内

炭そ病対策として、台風、雷雨の後は、アミスター20 フロアブル 2,000 倍（収穫前日まで/３回以内）で防除してください。　＜三谷＞

【果　樹】

１　温州みかんの摘果

樹の状態に応じた着果管理を進めて、Ｍ・Ｓ玉を中心とする高品質果実生産に努めてください。

(1) 着果過多樹

樹勢維持と隔年結果を防止するために、早急に、上部を中心に樹冠の 1/3 を全摘果して夏梢（次年度の結果母枝）を発生させます。

※発生した夏梢は、ミカンハモグリガ（エカキムシ）の発生に注意。

(2) 着果不足樹

粗摘果は行わず、仕上げ摘果または樹上選果により不良な果実を除去します。また、果実の周辺に光を当てて品質を向上させるために、かぶさり枝を除去してください。

(3) 着果、新梢ともに多い連年生産樹

品質向上のため、摘果は９月以降に重点を置いて実施してください。

２　中晩柑類の摘果

早期摘果による大玉果の生産に向けて、粗摘果は生理落果終了後すぐに始めます。粗摘果に重点を置いて実施し、葉が５枚以上ある優良な有葉果を中心に結実させます。主枝先端部や内・スソ成り果実、直花果、奇形果、傷果、小玉果などを摘果していき、８月上旬までには葉果比 100 程度に仕上げるよう計画的に作業を進めましょう。併せて、果実肥大と減酸を促すため、雨が少ない場合には、積極的に灌水を実施してください。

３　病害虫防除

黒点病の薬剤散布間隔は、前回散布後の累積降水量 200～250 ㎜または 30 日です。本病に弱い品種は散布間隔を短くし、最も弱い「せとか」は累積降水量 150～180 ㎜または 25 日を目安にしてください。　＜三谷＞

【花き・花木】

１　シキミの管理

夏期は害虫の発生期です。お盆の需要期に向け防除を徹底してください。

(1) フシダニ類

４～９月にかけて、成幼虫が展開直後の柔らかい新葉や新梢を吸汁し、葉にモザイク状の輪紋が出現します。成幼虫は体長 0.1～0.3 ㎜、淡黄色～橙色で群生します。寄生枝を早めに除去してください。

(2) 輪紋葉枯病

病斑は１～２㎝で赤褐色の同心円状の輪紋を生じ、その後病斑上に灰白色のキノコ状～球形の小型の菌体を形成し、ひどい罹病樹は落葉します。病葉は早めに除去してください。

(3) 病害虫防除

定期防除として、６月下旬～７月上旬に殺菌剤のベンレート水和剤 2,000 倍、殺虫剤のオルトラン水和剤 1,000 倍、ダニ剤のピラニカＥW1,000 倍を混用散布してください。防除は高温時を避け、涼しい時間帯に行ってください。薬剤は葉裏にかかるよう、ていねいに散布してください。

２　ピットスポラムの管理

ピットスポラムは常緑低木で、光沢のある波打った葉がフラワーアレンジメントに用いられ、安定的な需要が見込まれます。

秋の出荷最盛期に向け、追肥：高度化成肥料（14-14-14）を成木は 30 kg/10ａ、幼木は 10 kg/10a、アブラムシの防除：モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍またはアドマイヤ―フロアブル 2,000 倍を徹底してください。

なお、９月下旬から出荷を行う場合は、施肥により新芽が伸びて柔らかくなるため、９月の施肥は控えてください。生育が悪い場合や、木を大きくさせたい場合は９月も追肥をします。　＜浜田＞

【畜　産】

○家畜の生育適温と高温により生産に影響の出始める限界温度について

畜　種	適温域（℃）	生産に影響の出る限界温度（℃）
乳牛（成牛）	５～２０	２５
肉牛（成牛）	１０～２０	３０
成豚	１０～２０	２７
採卵鶏	２０～２５	３０～３２

四国中央市で平年の最高気温が２５℃を超えるのは６月中旬頃であり、家畜にも徐々に暑熱ストレスがかかってきます。

家畜の生育適温を考慮した**温度管理の目標は２５℃以下**です。暑熱対策として、直射日光を防いで風通しを良くし、多湿になるのを防ぐのが畜舎管理の重要なポイントです。特に直射日光の遮断は最も重要であり、畜舎内の気温が上がらないように屋根や外壁に銀色寒冷紗やよしず等の断熱効果のある資材を効果的に設置してください。

また、湿度が高くなると畜体からの水分蒸発が妨げられるため、より暑熱ストレスがかかります。畜舎屋根や土間への散水・細霧冷房の実施は、雨天時など湿度が高い時には逆効果となりますので、天候の状況を見ながら送風機と併用して行いましょう。　＜真鍋＞

【「四国中央市農業振興基本計画」を策定】

四国中央市では、農業を取り巻く環境の変化に対応し、持続可能な農業を推進するため、令和８年３月に「四国中央市農業振興基本計画（期間：10 年間）」を策定しました。

計画の内容は、市ホームページや各公民館などの窓口でご覧いただけます。

［問い合わせ先］

四国中央市　農業振興課　地域農政係（☎ 28-6323）